

しょうぼうちかいと
菖蒲内開戸遺跡



1. E区 畝状遺構 (中世)



2. E区 掘立柱建物 (奈良・平安)



[神奈川県教育委員会所蔵]

3. B区 遺構外出土壺形土器 (弥生)



4. B区 敷石住居跡 (縄文)

● 主な調査成果

中世の遺構としては、耕作に係る畝状遺構が確認されています。奈良・平安時代の遺構としては溝状遺構や、それに軸を合わせるように配置された竪穴住居や掘立柱建物が確認されています。弥生時代の遺構はほとんど確認されていませんが、弥生時代前期末頃の土器が出土しています。縄文時代の遺構でも、竪穴住居が見つっていますが、いずれも床面に礫を敷き詰めた敷石住居です。

北側の調査区に関してはすでに報告書が刊行されています。また南側の調査区についても、報告書刊行に向けて、出土品等の整理作業を行いました。

- 調査期間 2017年4月1日～2019年3月29日
- 事業者 国土交通省関東地方整備局
- 調査原因 一般国道246号(秦野IC関連)建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
- 時代 近世、中世、奈良・平安、弥生、縄文
- 所在地 秦野市菖蒲
- 遺跡位置 秦野市西部、四十八瀬川右岸の段丘

